

平成16年10月8日
農林水産省 生産局

第2回家畜改良増殖目標についての研究会（肉用牛）の概要について

下記のとおり、家畜改良増殖目標についての研究会（肉用牛）が開催されました。

記

1 日時

平成16年10月6日（水） 13:30～16:00

2 場所

東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省本館2階生産局第1会議室

3 出席者

委員：別紙のとおり

4 議事概要

事務局より配付資料の説明が行われた後、意見交換が行われました。委員からの主な発言は以下のとおりでした。

（去勢肥育牛の能力に関する目標数値について）

黒毛和種の肥育終了時月齢は、前回の案の方が経済面からみると妥当であり、出荷月齢をより早期化した今回の目標は現実的ではないのではないか。

短期肥育でもしっかり評価され販売できている。肥育目標は意欲的な目標として設定すべきであり、その旨を明記すれば、短期肥育を目標とする今回の提示案は妥当ではないか。

黒毛和種の肥育開始時目標は8ヵ月で240kgを超えない程度が妥当ではないか。260kgだと濃厚飼料多給となるのではないか。粗飼料多給を目指すのであれば、肥育開始時の目標体重をもっと小さくすべき。

日本短角種の目標は増体より脂肪に重点をおいている形になっている。日本短角種の1日平均増体量は1.00kg程度であり、1.10kgでは過肥になってしまう。

（種雄牛の産肉能力に関する目標数値について）

育種価向上値の目標数値のうち黒毛和種と日本短角種については、過去の最大値を目標値としているが、その妥当性について検討が必要。

育種価目標値は、平均値や基準年も入れてわかりやすい目標とすべきではないか。

種雄牛の能力について、産肉能力だけでなく繁殖能力に関しても記述すべき。

（成雌牛の体型に関する目標数値について）

今回は体型目標が追加されているが、遺伝的能力評価の進展等を考えると、あえて必要はないのではないか。

繁殖農家には体型の目安となる数字が必要。目標とすることで誤解を招くのであれば、スタンダードタイプの数値ということを明記すればよいのではないか。

体積の増大は初産月齢には有効だが、分娩間隔には負の相関があるという指摘もあるので、繁殖性の向上と体積の増大はつながらないのではないかと。

成雌牛の体型は過肥気味の印象を受ける。また、日本短角種の成雌牛の体型について、体高がそのままでかん幅を大きくするのは無理ではないかと。

(その他)

枝肉情報を有効に活用することは今後の重要な課題であり、記述が追加されたことは評価。

和牛の肉質や増体に係る遺伝子を見つけることができれば、改良体制は大きく変わる。遺伝子解析技術の重要性についてもっと記述すべき。

乳用種及び交雑種の肥育における効率的な生産を図るための飼養管理の改善について、もっと具体的に示す必要があるのではないかと。

問い合わせ先

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

生産局 畜産部 畜産振興課

関村、安松、藤芳

Tel 03-3502-8111 (内線3909、3911、3912)

03-3502-5984 (直通)

Fax 03-3593-7233

「家畜改良増殖目標についての研究会（肉用牛）」出席委員

（五十音順・敬称略）

- 伊藤 弓 全国食肉事業協同組合連合会専務理事
- 菅野 成厚 （社）岩手県畜産協会家畜改良部改良課長
- 児玉 一宏 （社）日本あか牛登録協会事務局長
- 塩谷 康生 （独）農業・生物系特定産業技術研究機構
畜産草地研究所家畜育種繁殖部長
- 深町 啓次 全国農業協同組合連合会飼料畜産中央研究所
研究開発部養牛グループリーダー
- 松永 直行 農事組合法人松永牧場理事
- 向井 文雄 国立大学法人神戸大学農学部教授
- 横山 政廣 （独）家畜改良センター鳥取牧場長
- 吉村 豊信 （社）全国和牛登録協会専務理事
- 渡邊 大直 兵庫県農林水産部畜産課主幹

（計10名）

（は座長、 関谷委員（全国農業協同組合連合会畜産総合対策部統括課長）代理）